



全肢連情報



ZENSHIREN BULLETIN

皆様からニュースのご提供を
心からお待ちしております

□編集・発行

一般社団法人全国肢体不自由児者父母の会連合会
〒170-0005 東京都豊島区南大塚3-43-11
福祉財団ビル5階

全肢連公式ホームページでも全肢連情報をご覧になれます
<https://www.zenshiren.or.jp>

TEL : 03-3971-3666

FAX : 03-3971-6079

全肢連

検索

メール zenshiren@zenshiren.or.jp

第83回障害者政策委員会への全肢連からの意見書

令和6年3月12日（水）に開催の標記委員会（全肢連からは、日比理事・岐阜県肢連会長に委員を務めていただいております）に、全肢連より意見書を提出しました。

今回のテーマは、「障害者に対する偏見や差別のない共生社会の実現に向けた行動計画についてです。

（全肢連）

昨年12月に開催された「障害者に対する偏見や差別のない共生社会の実現に向けた対策推進本部」において決定された「障害者に対する偏見や差別のない共生社会の実現に向けた行動計画」に関し、意見を提出いたします。

国は、障害を理由とする差別の解消を目的に制定した「障害者差別解消法」を平成25年に成立させ、「障害者権利条約」を平成26年1月に批准、2月に発効したことにより、障害者に対する偏見や差別のない共生社会の実現に向けて、障害者権利条約に基づき政府一丸となって取り組んできたものと考えます。

言うまでもなく障害の考え方には、「医学モデル（個人モデル）と社会モデル」の2種類があります。

現在は、障害のある人への社会的障壁を取り除くのは社会の責務であるという「障害の社会モデル」の考え方から、合理的配慮を基本として、社会全体でどう取り組んでいくかを議論の本質としております。

では、実際に社会的モデルが広がっているか。それが検証されて行動計画となっているのか。また、周知徹底するにはどうすべきか。行動計画における「具体的取組」では、行政主導での「結婚、出産、子育て」支援、障害当事者に対する相談支援、就労支援に関する経済自立支援、公務員（政府職員、自治体職員）に対する意識改革を行うとされています。

当会は、「住み慣れた地域での共生社会の実現」を求めています。障害のある人もない人も、共に地域で安心安全に暮らすことのできる社会の創造です。

しかし、現実では、階段や段差などの物理的な障壁だけではなく、障害者はこうあるべきだという概念は、意識せずとも差別・偏見に繋がっていると考えます。いただいた資料は主に行政を対象にする行動計画のように見えます。しかし、協会としては、「具体的取組」で挙げられた事項を含め、社会全体が変わることで「真の共生社会の実現」を目指すことを行動計画の柱にすべきと思います。

記

以上

(一) 行動計画の策定に向けたヒアリングにおいて述べた通り、「障害者に対する偏見や差別のない共生社会の実現に向けた行動計画」の中で、教育行政では児童から成人期まで教育機会を拡充して実行することや、労働行政では企業を対象とすること等、地域社会全体で啓発しあう積極的な取組を本質として、強い意志をもって発信する必要があると考えます。

回答が着ましたら、全肢連情報でお知らせします。

オンラインゲーム及び「海外で儲かる仕事」への注意喚起について

こども家庭庁より周知依頼

令和7年3月10日にこども家庭庁より、標記についての注意喚起がありましたので、資料とともに周知いたします。

「子供が犯罪に巻き込まれるきっかけとなるオンラインゲームに関する注意喚起」について 警察庁

概要

SNSに起因する各種犯罪の被害児童数が高い水準で推移する中、子供がインターネット利用のオンラインゲームの中で知り合った者から海外に誘い出され、特殊詐欺などの犯行に加担させられたという重要犯罪まで発生している状況であるところ、オンラインゲームが子供が犯罪に巻き込まれるきっかけとなるリスクについて注意喚起を行うもの。

【SNSに起因する事犯】罪種別の被害児童数の推移

年	児童に対する性的虐待	児童に対する性的虐待(強制性交等)	児童に対する性的虐待(強制わいせつ)	児童に対する性的虐待(児童買春)	児童に対する性的虐待(児童ポルノ)	児童に対する性的虐待(児童買春ポルノ)	児童に対する性的虐待(児童ポルノポルノ)	児童に対する性的虐待(児童買春ポルノポルノ)	児童に対する性的虐待(児童ポルノポルノポルノ)	児童に対する性的虐待(児童買春ポルノポルノポルノ)	児童に対する性的虐待(児童ポルノポルノポルノポルノ)	児童に対する性的虐待(児童買春ポルノポルノポルノポルノ)	児童に対する性的虐待(児童ポルノポルノポルノポルノポルノ)	児童に対する性的虐待(児童買春ポルノポルノポルノポルノポルノ)
2015	11	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2016	14	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2017	18	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2018	23	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2019	28	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2020	34	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2021	41	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2022	49	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2023	58	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

※ 被害児童数とは、殺人、強盗、強姦、不問答性炎等、強制性交等、人身売買、不問答性わいせつ、強制わいせつ

オンラインゲーム上のリスクとして保護者等を知っていただきたい事項

- 小学生など年少の利用者も被害に遭っている。**
オンラインゲーム起因の被害児童数は小学生が年々増加している。
- ほとんどのオンラインゲームに「ボイスチャット」や「メッセージ交換」の機能が備わっており、匿名・不特定の者とも簡単にやりとりができる。**
ゲーム中の会話において、ひわいな話題に興味を示した子供を犯罪の標的とする者がある。
- 協力してゲームを行うことを通じて、見知らぬ者にも「仲間意識」を持ちやすい。**
戦闘ゲームにおいて同じチームでプレイをし、「仲間意識」を強めて子供の信頼を得た上で犯罪行為を行う者がいる。
- ゲーム内における高価な「アイテム」の授与等の甘言を用いられ、被疑者の言うことに従ってしまう。**
ゲーム内で使用する有料の「アイテム」をプレゼントすることにより、子供の信頼を得た上で犯罪行為を行う者がいる。
- ゲームの上級者に対する「憧れ」の感情を利用される。**
ゲーム攻略のアドバイスをするなど「ゲームの上手な優しい人物」を演じて子供の信頼を得た上で犯罪行為を行う者がいる。

上記事項を踏まえた注意喚起

上記のリスクを踏まえ、保護者等の皆様には、下記の点について子供とよく話し合ってください。

- **ペアレンタルコントロールの活用**
スマートフォン、パソコン、ゲーム機等のペアレンタルコントロール機能を活用し、子供のオンラインゲーム利用を適切に管理する。
- **家庭でのルール作り**
オンラインゲーム内においても、SNSと同様、個人情報や不適切なメッセージを他人に送らない、ゲーム内で知り合った人と安易に連絡先を交換したり実際に会ったりしない、少しでも不安を感じたら相談するといった家庭内でのルールを作る。



「海外で儲かる仕事」は危険です！

オンラインゲームやインターネット等で知り合った面識もない知人から海外で儲かる仕事を誘われ、海外渡航した結果、脅迫・監禁され、犯罪に加担させられる事案が発生しています。

犯罪組織は、あなたの知人等を介して、偽の仕事内容を説明したり、航空券を送って渡航費を負担するなどして、あなたをおびき寄せますが、実際に海外へ渡航すると、更に国境を越えて、思いもよらない地域に連れて行かれるなどして、特殊詐欺等の犯罪に加担することを強制されます。

報酬が支払われないどころか、脅迫・監禁されて逃げられなくなり、家族や警察に助けを求めるところまでできなくなってしまう恐れがあります。殺されてもおかしくありません。

たとえ知人からの紹介であっても、内容に合わない高額な報酬が提示されるなど、少しでも怪しいと思う仕事には、一切応じないでください。

実際に海外の仕事を紹介され、警察に相談がなされた事例を紹介します。

～海外の仕事を紹介され、渡航してしまった事例～

- オンラインゲーム上で知り合った人から海外の仕事を紹介され、タイへ渡航後、ミャンマーへ密入国させられた。そして、マシンガンで武装した者が監視する建物に連れて行かれ、詐欺をさせられた。
- インターネット上で知り合った人から海外での仕事を紹介され、タイへ渡航後、ミャンマーへ密入国させられた。ノルマを課され、出来なければスタンガンで暴行される環境下で詐欺をさせられた。
- 知人への借金返済に窮していたところ、知人の関係者から、借金返済のために海外の仕事を紹介された。カンボジアへ渡航後、詐欺をさせられた上、軟禁された。
- 知人から海外の仕事を紹介され、中国へ渡航すると、詐欺をするように言われた。帰国したいと言うと、暴力団の名前を使って脅された。領事館へ助けを求め、保護された。
- 知人から海外の仕事を紹介され、はじめはカンボジアに渡航し、偽の仕事について説明を受けた。そして、ベトナムに行くよう指示され、渡航後、詐欺をするよう言われたため、逃げてきた。

～海外の仕事を紹介されたが、渡航しなかった事例～

- 海外在住の知人に、海外で仕事をしないかと誘われ、個人情報を見せてしまったが、マレーシア行きのチケットの写真が送られてきたことで怖くなり、警察に相談した。

「海外で儲かる仕事」を紹介されても、渡航前に思い止まって警察に相談することが「あなた」や家族を救うこととなります。警察は相談を受けた「あなた」や「あなたの家族」を確実に保護します。

一刻も早く「#9110」に電話して警察に相談してください。

ノーリフティングケア体験会

令和7年2月15日（土）に、兵庫県肢連主催「ノーリフティング体験会」が、兵庫県川西市立川西養護学校にて、開催されました。

これまで当たり前のように行われていた「持ち上げ・引きずり」介助は、介助者には、腰痛や腱鞘炎など仕事を続けられなくなるほどの健康障害を引き起こし、利用者には、苦痛を引き起こすだけでなく、褥瘡や変形・拘縮の原因になることがわかっています。

ノーリフティングケアとは、福祉用具・機器を活用して「持ち上げない・引きずらない」介助を行うことで、介助者・利用者どちらの身体も守るケアです。

兵庫県肢連では、「ナチュラル ハートフル ネットワーク兵庫」と連携して、このような体験会を開催するなど、「ノーリフティングケア」を広げる活動を行っています。



メガネのJINSがICT機器のマウスが操作できるハンズフリーマウス『JINS ASSIST』を販売開始

(2025年2月26日 株式会社ジンスホールディングス プレスリリースより)



株式会社ジンス（以下、JINS）は、手を使わずに頭の小さな動きで直感的にデジタルデバイスを操るメガネ「JINS ASSIST（ジンス アシスト）」を、2月26日（水）よりJINSオンラインショップとデジタル障害者手帳「ミライロID」内のオンラインストア「ミライロストア」にて発売しました。

社会課題「デジタルデバイド」解消へ貢献し、あなたの可能性が広がるきっかけを

JINSは、2015年に“世界初、自分を見るアイウェア”を掲げるメガネ型ウェアラブルデバイス「JINS MEME（ジンス ミーム）」を開発。JINS MEMEに搭載された独自のセンサー技術を、コントローラー（操作デバイス）として活用する方法を研究してきました。研究に取り組む中で、障害のある方やそのご家族から「JINS MEMEでマウス操作ができるようにならないか」「デジタルデバイスを使って、家族ともっと自由にコミュニケーションをとりたい」という切実な声が届きました。こうしたお客様の声におされて誕生したのが、ハンズフリーマウスのJINS ASSISTです。

現在、ITの進展によりデジタル化が加速し、日常生活などあらゆる場面でデジタルデバイスの使用が当たり前になっています。一方で、ITを利用できる人と利用できない

人との間に生じる格差「デジタルデバイド」が社会課題になっています。JINS ASSISTは、これまでデジタルデバイスの操作に不自由を感じていた人が、自由にデジタルとつながることで、日常の「できること」が増え、自身の可能性が広がるきっかけを提供します。

長時間でも快適。簡単に始められ自由自在な操作を、お客様の声を反映し続け実現！

JINS ASSISTは、手を使わずに頭の小さな動きでPC操作を可能にします。開発過程でオープンテストを繰り返し、お客様の声を反映しながら、簡単に使い始められて、長時間でも使いやすく、自由に直感的な操作性を実現しました。

使用方法は、JINS ASSISTをお持ちのメガネに装着し、コネクタをPCと接続するだけ。有線のため、充電や接続が切れる心配はありません。操作には大きな動作を必要としないため、長時間使い続けても疲労感を抑えることができます。基本的なマウス操作に加え、補助ソフトの拡張機能により、ショートカットキーやスクロールなどさまざまな操作が可能です。

※JINS MEMEは一般向け販売を終了しております。

商品概要

【商品名】JINS ASSIST (ジンス アシスト)

【ラインアップ】1種

【価格】15,000円(税込)

【発売日】2025年2月26日(水)

【販路】JINSオンラインショップ、ミライロストア(※数量限定)

【公式サイト】<https://www.jins.com/jp/jins-assist/>

【対応OS】Windows 10以降(x64, ARM64)、macOS 13以降(Apple silicon, intel)

【対応ポート】USB-Cポート

【仕様】質量：約13g(本体4g、ケーブル9g) / 材質：プラスチック(本体)、シリコン(アタッチメント部分)

【備考】メガネのテンプルのサイズ・形状によって装着ができない場合があります。詳細は公式サイトをご覧ください。

【株式会社ミライロ 代表取締役社長 垣内 俊哉氏コメント】

JINS ASSISTは、障害のある方の強力なサポートとなることを確信しています。既存のツールは多くが情報伝達機能にとどまっていたが、JINS ASSISTはパワーポイントの作成なども可能で、障害があってもクリエイティブな作業を行うことができる画期的なツールです。また、リモートワークやSNSを通じて、仕事や日常生活で社会との接点を持ち、孤立感を減らす手助けにもなります。障害のある方のバリアを解消する可能性を持ち、選択肢を大きく広げ、また日本企業に多くの刺激を与えるとともに、社会性と経済性の両面で大きな価値を生み出す取り組みです。当社もJINS ASSISTを多くの方に届けるため、「ミライロストア」を活用し、障害のある方の社会参加を後押ししていきたいと考えています。

愛知県肢連理事研修会 ～「石川県の現状について」報告と体験談～

令和7年3月1日(土)に、愛知県肢連理事会と併せて、標記研修会が開催されました。

愛知県肢連 荻野義昭会長より「能登半島地震、発災時その時何をしましたか」



1年以上も前になります能登半島地震ですが、未だに復旧が進んでいないことはご存じの通りです。父母の会としましては全肢連を通じまして災害見舞金をお送りしました。

令和7年1月11日に金沢を訪れ、輪島市で地震を体験し現在も引っ越しを繰り返しながら避難生活を続けておられる石川県輪島市の父母の会のお二人に地震当時の話しを伺ってきました。そこにはニュースや新聞では語られなかった実際の恐怖がありました。

Sさんの話です。

「3人暮らしで子どもはつかまり立ちが出来る程度です。主人がその日は家にいました。そして普段は電動ガレージに入れてある車ですが、たまたま外に出してありました。家族団らんの中4時10分にその時地震が起きました。つかまり立ちをしていた子どもをテーブルの下に入れて、私が覆い被さり収まるのを待ちました。子どもはテーブルの下でピンと硬直し動かなくなっています。余震が来る！直ぐに身構えました。2回目の地震はさらに大きく揺れ、いろいろな物が飛んでいました。上にある物はあらかた落ちました。そこにはガラスも落ちていました。後で見ると子どもの足は怪我をしていました。いつ終わるとも分からない揺れの中で、輪島は三方を海に囲まれているから津波が来ると考えました。大きな揺れは3回ありました。揺れが落ち着いて夫婦で子どもの脇と足を持って玄関に向かうと壁が崩れて出られない状態です。主人が以前リフォームしたときに子どもの部屋は何かの時に、掃き出し窓に変えていました。そこから外へ出ました。車に乗り込み避難しようとするも、道路のアスファルトが割れて通れなくなっており、車では避難が難しい道幅です。歩きの人は山へ逃げようとする人もいましたが土砂崩れ警戒地域なので避難所へと向かいました。すれ違う運転手に道の状況を聞きながら進んで行きます。橋の袂に近づくと橋が道路から1m近く上がっています。もし夜だったら激突していたかもしれません。橋の手前の右側道路は家が潰れて塞がっていました。左側は道路が斜めに落ち込み車が落ちています。引き返しながらあちこち通れるところを探しながらの移動です。実家には高齢の母がいるのですが、無事なことを祈り、子どもを優先に考え、実家に向かうことはしませんでした。そんな中『ふれあい健康センター』があったのでそちらに避難させてもらいました」

Kさんのお話です。

「祖父の代から住んでいる家で、子どもと私、そして母と私の弟の4人暮らしです。子どもは、はいはいで移動します。子どもは、ドライブが好きで毎日午前中に出かけるのですが、その日は出かけると言いませんでした。でも、午後3時45分にドライブに行きたいと言いだし、弟さんも母親を連れてみんなで出かけようと軽い気持ちでドライブに出かけました。4時10分スマホから緊急地震速報が流れました。揺れる車を制御しながら車を停めた時に2回目の地震が起きました。車が横転するんじゃないかと思うほどの揺れです。シートベルトをしていたので、放り出されることはなかったのですが、手に持っていたスマートフォンは後の方へ飛んでいき、車の中の固定されていない物はグチャグチャでした。ジェットコースターなんてもんじゃないのです。近くの土蔵倉は土煙が立ち瓦は落ち、山では土砂崩れが見えました。近所の人たちは田圃の畦道に出てきていました。引き返そうとするも、ほんの数分前に通ったトンネルの手前には大きな岩が落ちて道を塞いでいます。反対側は道路が崩れておりそこで孤立してしまいました。スマートフォンも繋がらず水も食べも無く暖を取っていたガソリンも減っていきます。自分たちの情

況を伝える術が無い状況のまま夜中の12時になってしまいました。そんな時に車の窓をトントンと叩く人がいました。地元の人が『公民館で暖を取るから一緒に来たらどうですか』と声を掛けてもらいそちらに避難することが出来ました。以上が、地震発生から8時間、出来事のあらすじです。ちなみに自宅は地震で潰れておりドライブに出かけていなかったらどうなっていたのかゾッとします」

石川県肢連は1月2日に事務所に役員が自主的に集まりました。まずは安否確認です。名簿には自宅の固定電話しか登録がなく、特に能登方面の方には連絡が取れませんでした。SNSを使った安否確認を行うなど使えるツールを駆使しながら全員の安全が確認できました。

1月4日には避難所では暮らすことが難しい人を、石川県特別支援学校の隣にある整肢学園に入れることが出来るなど混乱時にも関わらず迅速な行動が取れたことは特筆すべき事です。輪島から金沢までの移送についてもリアルなお話を伺いました。

私が伺えたのは地震発生から1週間のお話です。それだけで2時間を超える時間を要しました。

では、地震が来ると分かっている今、私たちは何をしたらいいのでしょうか。「災害に備える」短い言葉の中にあまりにも大きな課題が入っています。個別避難計画をご存じでしょうか。本来は行政が率先して取り組まなければならないものです。実際は僅かなところしか計画が出来ていません。石川県では個別避難計画を見える化してこのように行う一例を紹介してくれました。

本人の自宅に多くの関係者が集まります。①本人 ②母親(家族) ③相談支援員 ④主治医 ⑤医療的ケア児支援センター員 ⑥訪問看護ステーション看護師 ⑦放課後等デイサービス支援員 ⑧近隣の友達 ⑨民生委員 これだけの人が集まり先ず本人の状態をみんなで共有します。そこからは考えられるありとあらゆる事を想定してのカンファレンスになりました。大きなホワイトボードに書き切れないほどの問題が提起されました。

私たちは防災や減災についていろいろと講習を受けたり避難グッズを揃えたりしています。それは実際に被災した時に慌てない、困らないよう事前に準備しましょうという事です。今回被災された方のお話を伺ってもっと違うことがあるのではないかと感じました。いつ起こるのか分からない災害です。被災した瞬間を考えておかないとなにも行動できないまま時間だけが過ぎて仕舞いそうです。



参加者の感想「～石川県の現状について～」を拝聴して

被災された瞬間から、今までのことをとても詳しく、当時を思い出しながら話して下さる姿を見て、これは本当に他人事では無いと、途中から焦りを感じながら見ていました。中でも印象に残ったことが、お一人の方はお子さんの障害だけで無く、ご自身にもアレルギーがあり、アナフィラキシーショックになってしまい救急車で運ばれるという大変な思いをされたこと。私自身もアレルギー持ちなのですが、「アレルギーくらいで被災した時に大騒ぎしてはいけない、でも薬がなかったらどうなるんだろう？」という漠然とした不安があったので、その状態が何日も続くと命に関わることもあって、「しっかり人にも伝えてもいいんだ、対策しないと」ということを教えていただきました。

もう一つは、「やはり父母の会のような繋がりがどれだけ大切か」ということでした。普段から親しくしている友人知人同士、「どここの避難所なら今少し空いているよ！」と教えあったり、家が倒壊してしまい電話が使えない時に、グループラインが役に立ったそうです。普段から、コミュニケーションを取っているということは、有事の際にはとても心強いものなのだと教えていただいたように思います。

そして、父母の会で力を入れていることの中の一つ、「個別避難計画」のお話を聞かせていただきました。石川県肢連では行政にはたらきかけ、計画を立てて、その後実際にその計画通りに動けるかどうかシミュレーションまでされているそうです。

本人、家族、相談支援員、防災士、ヘルパーなどあらゆる方面から意見を出して綿密に計画を立て、地震が起きたと想定して避難所まで要支援者を運べるかどうかをシミュレーションして作られた動画を私たちにも見せて下さいました。

素晴らしい取り組みだと思うのと同時に、まだ幸い被災していない今のうちから私達はやらなければならないことだと痛感しました。

お話をしてくださった被災ご家族の方には感謝しかありません。悲しい被災体験を少しでも無駄にしないように私たちにできることは何か、を今一度真剣に考える時だと思っています。

2025年度さわやかレクリエーションについて

さわやかレクリエーション事業は、各地で課題となっている父母の会活動の活性化、新たな会員の発掘、地域住民との連携などにつなげていくため、全国のコカ・コーラボトラー各社からご支援いただき実施されてきました。

2025年も引き続き「地域共生」「地域連携」をテーマに、各都道府県肢連・地域父母の会と地域住民との交流を目的に、さわやかレクリエーション助成事業として実施いたします。

4月上旬には、要綱を各都道府県肢連あてに送付予定です。

事務局から

○障害者と相互理解促進交流イベント実行委員会

令和7年3月21日（金） 16：00～ 内閣府

○令和6年度第2回理事会

令和7年3月24日（月） 13：30～ 福祉財団ビル7階大会議室

○第3回障害者の文化芸術を推進全国ネットワーク会議

令和7年3月31日（月） 10：00～ オンライン

○令和6年度監事監査

令和7年5月9日（金） 14：00～ 全肢連事務局

○令和7年度第1回理事会、総会

令和7年5月26日（月） 10：30～理事会 13：30～総会

参議院議員会館会議室（予定）